

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地			
呉竹鍼灸柔整専門学校		平成 14 年 1 月 11 日	小林 賢次		〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-7-24 (電話)045-471-3731			
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地			
学校法人 呉竹学園		昭和 31 年 10 月 17 日	坂本 歩		〒160-0008 東京都新宿区三栄町 3 番地 (電話)03-3341-4043			
目的	学校教育法及び柔道整復師法の規程に基づき、柔道整復に関する専門的知識及び技術を修得させ、職業若しくは實際生活に必要な能力の育成と教養の向上を図るとともに、柔道整復に求められる、より実践的かつ専門的な能力を育成するため、関連企業、関係施設、業界団体等の企業等と密接に連携しながら、組織的かつ主体的に専攻分野における実務の知識、技術、技能等を教授することにより、職業教育の水準の維持向上を図り、もって生涯学習の振興に資することを目的とする。							
分野	課程名	学科名			専門士の付与		高度専門士の付与	
医療	医療専門課程	柔道整復科 午前コース (I 部)			文部科学省告示第 14 号 (平成 15 年 2 月 19 日)		—	
修業年限	昼夜	全課程の終了に必要な総授業時数 又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
	3 年	昼間	2 4 1 8 時間	1 6 0 8 時間	—	9 0 時間	—	7 2 0 時間
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数		
1 8 0 人		1 5 5 人		8 人	2 2 人	3 0 人		
学期制度		■ 1 学期：4 月 1 日～7 月 31 日 ■ 2 学期：8 月 1 日～11 月 30 日 ■ 3 学期：12 月 1 日～3 月 31 日			成績評価			■ 成績表 (有・無) ■ 成績評価の基準・方法について 学科・実技試験の成績 (100 点満点換算で 60 点以上を合格) 及び出欠席の状況を基に、教務会にて学業成績の評価を行う。
長期休み		■ 学年始め：— ■ 夏 季：8 月 12 日～25 日 ■ 冬 季：年末年始 ■ 学 年 末：3 月 25 日～31 日			卒業・進級条件			(卒業要件)： 実技を含めた各科目の年間成績評価が 60 点以上の者で、実技認定試験及び卒業試験に合格し、所定の学費を納入した者。 (進級要件)： 実技を含めた各科目の年間成績評価が 60 点以上の者で、進級試験に合格し、所定の学費を納入した者。

生徒指導	<b>■クラス担任制</b> (有・無) <b>■長期欠席者への指導等の対応</b> 欠席率が20%を超えた者は、担任が指導注意を行う。引き続き欠席した場合は文書により通知し、場合によっては保証人と三者面談を行うことにより欠席への対策を図っている。	課外活動	<b>■課外活動の種類</b> ・ 県竹医学会学術大会 ・ 学園祭 ・ 全国柔道整復学校協会学術大会  <b>■サークル活動</b> (有・無) ・ 柔道サークル
主な就職先	<b>■主な就職先、業界</b> 接骨院、病院・医院、独立開業等 <b>■就職率</b> 85.7% (平成27年3月時点)	主な資格・検定	柔道整復師の国家試験受験資格
中途退学の現状	<b>■中途退学者</b> 16名 <b>■中退率</b> 9.3% 平成26年4月1日在学者 171名 (平成26年4月入学者を含む) 平成27年3月31日在学者 155名 (平成27年3月卒業生を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 進路変更、病気、家庭の事情等 <b>■中退防止のための取組</b> 近年、柔道整復科にはスポーツトレーナー等を目指す高校卒業してすぐの若い学生が増えているが、それに比例するように医療系の勉強についていくことができない学生も増え始め、成績不良や留年を契機に退学する学生が増加傾向にあることから、次のような対策を講じている。 ・ 成績不良者を早期に発見するために中間試験を実施している。 ・ 1年次から補習や補講を行い、科目の理解を助けている。 ・ 必要に応じて、個人面談、三者面談を行っている。 ・ 勉強への意欲が消失しないよう、基礎分野の科目を工夫したり企業ガイダンスや各種講習会、講演会を開催し、モチベーションの維持向上を図っている。 ・ 奨学金や学費分納制度、独自の教育ローンなどを紹介している。		
ホームページ	URL : <a href="http://www.kuretake.ac.jp/acupuncture/">www.kuretake.ac.jp/acupuncture/</a>		

1. 教育課程の編成	
(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針) 教育課程については、関係法令「柔道整復師養成施設指導要領」においてその教育内容や教員資格等が厳格に規定されており、その範囲でより実践的な医療・医学の専門知識、技術を教授できるよう、治療院や病院勤務経験のある豊富な施術経験を持った講師の助言・意見等を活かして、特に実技実習に関する授業内容の改善や授業評価、学生指導を行うとともに、医療人としての素養、資質、人格を涵養しながら、医療現場の実際・実態に見合う技術の提供を行うことを基本方針としている。具体的には、柔道整復の実技実習担当の専任教員と治療院等に勤務する教員資格を有する講師とで実習内容、学生の学修成果の達成度評価指標等について綿密な打合せを行い、教授すべき教育内容を定めている。同時に教員資格を持った講師が実習を行うことで、日常的な指導も含めた中間的な評価や専門性の高い技術的な指導等を可能にしている。また、実習終了時には、担当教員が作成した成績評価に従い、外部講師による学修成果の評価を行っている。	
(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)	
平成27年3月31日現在	
名前	所属
吉田 秀樹	公益社団法人 神奈川県柔道整復師会 会長
伊勢山 竹雄	一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会 会長
清水 慎司	公益社団法人 神奈川県鍼灸師会 会長
木ノ内 秀効	田子浦鍼灸接骨院 院長
戸畑 智秋	ちあき接骨院 ちあき鍼灸マッサージ院 院長

小林 賢次	呉竹鍼灸柔整専門学校 校長
杉山 直人	柔道整復科 科長
村澤 幸弘	柔道整復科 専任教員
建石 泰三	事務長

(開催日時)

第1回平成26年 6月18日 18:00 ~ 18:30

第2回平成27年 1月29日 17:00 ~ 18:00

第 回平成 年 月 日 : ~ :

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

関係法令で定められた授業科目において十分な医学知識、施術技能、臨床力など医療人に必要な素養を身につけさせた上で、企業等と連携しながら実際社会で求められる技能を段階的に教授し、現場の即戦力となる治療家を育成することを基本方針とする。

科目名	科目概要	連携企業等
上肢の応用治療法Ⅰ	上肢の各骨部や各関節の損傷に関して十分な理解を前提に、従来から用いられている整復法や固定法に関して、これまでに培った知識を集大成して、その有用性を検証する。また実習を交えて新しい施術方式についても同様に可能性を検証しながら探求を進める。	等々力まつだ接骨院
上肢の応用治療法Ⅱ	上肢の各骨部や各関節の損傷に関して十分な理解を前提に、従来から用いられている整復法や固定法に関して、これまでに培った知識を集大成して、その有用性を検証する。また実習を交えて新しい施術方式についても同様に可能性を検証しながら探求を進める。	等々力まつだ接骨院
包帯固定法	柔道整復で用いる基本的な固定材料および治療機器を使用、また計測法・徒手検査法の基本を講義し実際行ってみる。 基本包帯法に始まり各関節の包帯法、厚紙副子・金属副子の作り方、絆創膏を使った固定法、ギプス、プラスチックキャストの扱い方等について講義を含め実施する。	東久留米久米鍼灸整骨院

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

医療関係職種の人材育成に携わる教職員の更なる資質の向上を目指し、学会及び業界団体を中心とする企業等の研修会、勉強会等に組織的に参加し、最新の医学知識や東西両医学の知識、手技療法等の専門知識・技術の修得に努めるとともに、学内に設置した教育センターによるFD活動を通じて、最新の学習理論や教育方法論などの実践的教育手法についても学び、より一層の教育の質の向上、改善を図ることを基本方針とする。尚、研修等に関する規程は「研修規定」において定めている。

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年3月31日現在

名前	所属
吉田 充孝	公益社団法人 神奈川県柔道整復師会 会長
伊勢山 竹雄	一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会 会長

清水 慎司	公益社団法人 神奈川県鍼灸師会 会長
吉田 達矢	バランスアップ鍼灸整骨院 院長／呉竹鍼灸柔整専門学校 呉竹会 会長
戸畑 智秋	ちあき接骨院・ちあき鍼灸マッサージ院 院長
三田 正樹	樹はりきゅう院 院長
山本 浩之	在校生 保護者

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL : [www.kuretake.ac.jp/acupuncture/](http://www.kuretake.ac.jp/acupuncture/)

## 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL : [www.kuretake.ac.jp/acupuncture/](http://www.kuretake.ac.jp/acupuncture/)

## 授業科目の概要

医療専門課程 柔道整復科 I 部 平成26年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		総合基礎Ⅰ	科学的・理論的思考力を育てると同時に、人間性を高め、自主的な判断力を培い、生命倫理や人権とその尊厳について理解を深め、国際化・情報化社会に対応できる能力を養う。	1 ②	75	—	○			○		○	
	○		総合基礎Ⅱ	科学的・理論的思考力を育てると同時に、人間性を高め、自主的な判断力を培い、生命倫理や人権とその尊厳について理解を深め、国際化・情報化社会に対応できる能力を養う。	2 ②	75	—	○			○		○	
	○		総合基礎Ⅲ	科学的・理論的思考力を育てると同時に、人間性を高め、自主的な判断力を培い、生命倫理や人権とその尊厳について理解を深め、国際化・情報化社会に対応できる能力を養う。	3 ②	60	—	○			○		○	
○			人体構造学Ⅰ	解剖学総論、人体の構造の概要を総論として講義する。各論、筋学、骨学を発生を加味して理解させる。	1年 通	72	—	○			○		○	
○			人体構造学Ⅱ	神経系、内臓系、脈管系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系、感覚器系の構造を系統的に講義する。	2年 ① ②	48	—	○			○		○	
○			人体構造学Ⅲ	最新の知見、局所解剖、臨床解剖学を加味して講義する。	3年 ③	24	—	○			○		○	

○		人体機能学Ⅰ	細胞内小器官の名称と機能、血液の役割と各血液成分の機能・血液凝固の機序、血液型心臓と血管の構造と機能および循環調節の仕組み、呼吸器系の構造、機能および換気の仕組みとその調節、消化器系を構成している各部位の構造と機能および吸収の仕組み、代謝の仕組みと体温の産生とその調節、腎臓の役割および尿生成と排泄の仕組みを講義する。	1年 通	72	—	○		○		○
○		人体機能学Ⅱ	各種ホルモンの作用と分泌調節の仕組み、性分化の仕組みと女性生殖器のホルモンによる周期的変化男性生殖器では精子形成の仕組み、カルシウム代謝に関与する各種ホルモンの働きを講義する。	2年 ① ②	48	—	○		○		○
○		人体機能学Ⅲ	神経興奮の発生と伝導の仕組み・機能別に異なる神経の各組織や器官の協調による統制機能の仕組みに対しての関わり方、筋肉の構造と興奮収縮連関の仕組み感覚の種類と一般的性質、皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚の発生の仕組みと特徴、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、前庭感覚の発生の仕組みとその特徴を講義する。	3年 ③	24	—	○		○		○
○		運動器の機能と発達	1・2年次に履修した運動器に関わる知識(筋・骨格の構造、筋の生理、運動を制御する神経機構など)を基に、包括的に正常な運動(姿勢の維持、歩行)を講義する。	3年 ②	24	—	○		○		○
○		疾病の成り立ちⅠ	病気に関しての大まかな知識や概念を把握できるように講義を進めてゆく。また随時、補充資料やスライド等を使用し講義する。	2年 ①	24	—	○		○		○
○		疾病の成り立ちⅡ	進行性病変、炎症、免疫異常・アレルギー・腫瘍・先天性異常の各分野について学ぶ。	3年 ②	24	—	○		○		○
○		運動器診断治療学Ⅰ	整形外科診断学では診察法に始まり画像診断、血液検査、関節鏡検査などを紹介し、柔道整復との関連を深く理解できるよう講義する。整形外科的治療法では保存療法、観血療法を紹介し外傷による運動器損傷に対する治療法の柔道整復との相違点が理解できるよう講義する。	2年 ① ②	48	—	○		○		○
○		運動器診断治療学Ⅱ	骨系統疾患、感染性疾患、神経筋系統疾患、腫瘍性疾患等を総論的に説明する。体幹・上肢・下肢の疾患を疾患ごとに順次説明する。	3年 ①	24	—	○		○		○
○		内科診断治療学Ⅰ	診察概論として医療面接・視診・触診・打診・聴診及び理学的検査の方法を例示し、各疾患におけるそれらの所見と重要な鑑別点を講義する。	2年 ① ②	48	—	○		○		○
○		内科診断治療学Ⅱ	疾患別に付随する解剖学・生理学的内容を含め総括的に講義する。	3年 ①	24	—	○		○		○
○		外科診断治療学Ⅰ	損傷、外傷、炎症、腫瘍、ショック、輸血・輸液、滅菌・消毒、手術・麻酔、出血・止血、蘇生法などの外科的な基本事項を概括的に学ぶ。	2年 ① ②	48	—	○		○		○
○		外科診断治療学Ⅱ	外科領域の疾患それぞれの疾患をジャンル別にまとめ外科的な立場からその症状や治療法について学ぶ。また柔道整復師には禁忌症となっているが、日常業務において遭遇しやすい創傷や救急処置を必要とする外傷の対処法などを学ぶ。	3年 ①	24	—	○		○		○
○		人体機能回復論Ⅰ	姿勢保持及び歩行に関与する筋等の組織、異常姿勢・歩行と組織異常との関連を講義する。リハビリテーションの概念、目的、障害学、障害学、治療学、評価と診断を講義する。さらに運動療法、物理療法、作業療法の概要について講義する。	2年 ① ②	48	—	○		○		○

○	人体機能回復論Ⅱ	リハビリテーションの実際は中枢神経や末梢神経系障害による疾患、四肢切断等の機能障害に対するリハビリテーションなどを講義する。	3年②	24	—	○		○		○								
○	健康の意義Ⅰ	衛生統計、疫学、健康の概念、疾病の予防と健康管理、環境衛生、生活環境・食品衛生活動、労働衛生等の事項を資料に基づいて学習する。	1年①	24	—	○		○		○								
○	健康の意義Ⅱ	母子・学校保健、成人・老人保健、精神衛生、保健医療制度、感染症と消毒等の事項を講義する。	3年③	24	—	○		○		○								
○	関係法規Ⅰ	法律の概要を講義し憲法・法律・政令・省令・条例・規則などの関係を講義する。 柔道整復師法の内容を講義し他の医療関連法律との関係を講義する。	1年③	24	—	○		○		○								
○	関係法規Ⅱ	医療法・医師法・歯科医師法などの概略を講義し柔道整復師法との相違について説明する。社会保険関連法規の概略を講義し保険取り扱いの重要性を説明する。	3年①	24	—	○		○		○								
○	柔道Ⅰ	柔道の歴史と柔道整復についての講義を行う。 礼法:目的・立礼・拝礼を実技指導する。 受け身:目的・基本の受け身・後ろ受け身・横受け身・前回り受け身の实技指導および投げ技に対する受け身 投げ技:組み方・姿勢・吊り手・引き手・足の運び・膝の使い方について基本技を中心に実技指導	1年①②③	60	—			○	○									○
○	柔道Ⅱ	形と一般練習との間合いの違いについて実習により体得する。 形:形により技の成り立ちと柔道の理合いについて解説と実技指導を行う。 投げ技については打ち込み練習、約束乱取り(固め技を含めて)を行い技の理合いを理解できるように実技指導する。	3年①	30	—			○	○									○
○	柔整運動器基礎	講義は運動器の構造・機能を主体に行い、同時に柔道整復師として重要な損傷についても加味して講義してゆく。	1年通	72	—	○		○		○								○
○	骨損傷論基礎	骨格模型・筋の構造図などを用いて骨の生理的機能、骨折の人体機能への影響など理論的・視覚的に学習できるよう講義する。 骨折の発生機序・骨折と外力との関係の力学的解析・症状・治療法の概略を講義する。 骨折治癒までの経過と各時点での注意事項など総論的に講義する。	1年通	72	—	○		○		○								○
○	関節損傷論基礎	骨格模型・関節模型を用いて関節の種類、関節構造の概要、関節構成組織の分類、それぞれの機能について視覚的に学習できるよう講義する。 脱臼・捻挫についてその発生機序・症状・治療法の概略を講義する。 おのおのの検査法の意義、具体的動作法と人体構造との関係を考える内容で講義する。	1年通	72	—	○		○		○								○
○	上肢の損傷・治療論Ⅰ	上肢帯の骨・関節損傷を部位ごとに分類する。 部位ごとの骨折をそれぞれ発生原因と骨片転位の関係、骨片転位に伴う変形等と症状の関係、骨片転位と骨折整復法の違いとの関係など系統的に講義する。	1年①	24	—	○		○		○								○



○		体幹の損傷・治療論	頭部骨折・顎関節脱臼・顎関節損傷の臨床所見の出現を理解できるように理論的・視覚的に学習できるように講義する。 胸部・体幹の解剖学的基礎知識を理解し、骨折の発生機序・骨折と外力との関係の力学的解析・症状・治療法の概略を講義する。 体幹・四肢軟部損傷の概要を講義し、治療の方法、損傷治癒までの経過と各時点での注意事項など個別に理解できるように講義する。	2年 ① ②	48	—	○		○	○								
○		総合柔道整復論	上肢・下肢・体幹の骨・関節において、臨床上発生する損傷を分類する。その臨床的な視点に関して、基礎科目的な視点との相違を理解する。また骨・関節損傷の頻度や受傷機転に関する理解を深め、頻度の高い損傷に重点を絞り、従来から用いられている整復法や固定法について理解を深める。	3年 通	150	—	○		○	○								
○		包帯固定法	柔道整復で用いる基本的な固定材料および治療機器を使用、また計測法・徒手検査法の基本を講義し実際行ってみる。 基本包帯法に始まり各関節の包帯法、厚紙副子・金属副子の作り方、絆創膏を使った固定法、ギプス、プラスチックキャストの扱い方等について講義を含め実施する。	1年 通	90	—			○	○		○	○	○	○	○		
○		柔整治療法基礎	上肢、下肢、体幹での基本的な手技療法・関節可動域測定・徒手筋力検査を理解し実習することで、筋の位置、走行、関節の運動方向、靭帯の位置と走行、人体各部の触診方法を学習する。	1年 通	90	—			○	○		○						
○		上肢の応用治療法Ⅰ	上肢の各骨部や各関節の損傷に関して十分な理解を前提に、従来から用いられている整復法や固定法に関して、これまでに培った知識を集大成して、その有用性を検証する。また実習を交えて新しい施術方式についても同様に可能性を検証しながら探求を進める。	2年 ③	90	—			○	○		○	○	○	○			
○		上肢の応用治療法Ⅱ	上肢の各骨部や各関節の損傷に関して十分な理解を前提に、従来から用いられている整復法や固定法に関して、これまでに培った知識を集大成して、その有用性を検証する。また実習を交えて新しい施術方式についても同様に可能性を検証しながら探求を進める。	3年 通	90	—			○	○		○	○	○	○			
○		下肢の応用治療法Ⅰ	下肢の各骨部や各関節の損傷に関して十分な理解を前提に、従来から用いられている整復法や固定法に関して、これまでに培った知識を集大成して、その有用性を検証する。また実習を交えて新しい施術方式についても同様に可能性を検証しながら探求を進める。	2年 ② ③	90	—			○	○		○						
○		下肢の応用治療法Ⅱ	下肢の各骨部や各関節の損傷に関して十分な理解を前提に、従来から用いられている整復法や固定法に関して、これまでに培った知識を集大成して、その有用性を検証する。また実習を交えて新しい施術方式についても同様に可能性を検証しながら探求を進める。	3年 通	90	—			○	○		○						



○		体幹の応用治療法 I	頭部骨折の重大性を理解し、適切な応急処置および対応が出来るようにする。 発生機序と臨床所見から肋骨骨折・脊椎骨折の存在を診断でき、適切な対応ができる能力を養う。 重大な合併症としての脊髄損傷についての理解を深める。体幹および四肢の軟部損傷についての発生メカニズム、症状、合併症などを知る。関連整形外科疾患との鑑別ができる。	2年 ③	90	-			○	○	○	○
○		臨床実習 I	講義で柔道整復の保健取り扱い上の注意を適応や禁忌を例にとり説明する。また、柔道整復を行う上で重要な患者さんに対する態度、安全性・清潔保持の必要性を講義すると共に、実際に付属施術所で体験する。 物理療法機器・知覚検査機器・身体計測機器を使用しその実際を体験する。 開業柔整師及び勤務柔整師の体験を講義する。 救命講習を行い応急手当の技術を習得する	1年 ① ③	45	-			○	○	○	
○		臨床実習 II	臨床現場で患者の状態に即した対応ができるよう、特に運動器の正常機能について深く理解し、機能異常の発見及びその対応が正確にできる。 運動器の疾患については機能の状態から疾病の原因等が類推できる能力を養う。	3年 ②	45	-			○	○	○	
合計				46 科目	2418 単位時間							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件)	実技を含めた各科目の年間成績評価が 60 点以上の者で、実技認定試験及び卒業試験に合格し、所定の学費を納入した者。	1 学年の学期区分	3 期
(履修方法)	各学年毎に定められた必要な授業科目（単位）をすべて履修しなければならない。ただし、基礎分野の科目については、既に大学等において基礎分野の科目に相当する科目を履修している場合は、当該科目の履修を免除することができる。	1 学期の授業期間	12 週